

ただいま調査中！ 1万年前の”植物利用”

発掘した竪穴住居跡の床などの土をフルイにかけて洗ったところ、調理などで焦げた植物の種子・果実(炭化種実)が沢山みつかった。

さらに、土器をよく観察すると、作られる途中で粘土に入り込んだ植物の種子・果実のあと(圧痕)が残っていた。植物だけではなく、コクゾウムシという害虫の圧痕もある。これから詳しく調べていくことで、約1万年前にどんな植物を利用していたのか、食べ物や味付け、当時の植生(植物が生えていた環境)などもわかるのではと期待が広がる。



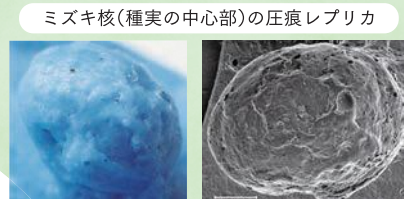
フルイがけ・水洗した土から
微細な種子や果実を選び分ける



ミズキの炭化核



ミズキ



ミズキ核(種実の中心部)の圧痕レプリカ



土器についた
種子・果実のあと
(圧痕)

圧痕をシリコンで型取り
(レプリカ作製)

レプリカを顕微鏡で観察
植物の種類を調べる

カラスザンショウ種の圧痕レプリカ



カラスザンショウ

ダイズ属種子の圧痕レプリカ



ツルマメ(ダイズ属)

コクゾウムシの圧痕レプリカ



コクゾウムシ



目次

取掛西貝塚だけじゃない！ ”市内最古”のバイオリン形土偶

↑
2cm
↓



実物大

縄文時代早期で、取掛西貝塚よりも古い土偶(約1万1千年前)が、市内の小室上台遺跡で出土している。手乗りサイズのシンプルな見た目だがとても丁寧なつくりで、さまざまな祈りが込められただろう。

編集・発行：船橋市教育委員会生涯学習部文化課
令和2(2020)年3月30日発行
千葉県船橋市湊町2-10-25
電話：047-436-2887

取掛西貝塚について
Facebookでも情報発信中です！



文化課Facebook

千葉県

船橋市

国史跡をめざして…

取掛西貝塚

1万年前の貝塚からみえる暮らしと環境

Torikake Nishi Kaizuka

